

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

創造性を育む環境／認定こども園 常磐会短期大学付属いずみがおか園

遊びを創る創造的な姿や、主体的に遊んでいる姿から、創造性の育ちや主体性の育ちを読み取るには、どのような環境が必要でしょうか？今回は、遊びを生み出す子どもたちのための、環境や援助の工夫に注目します。



○ゼロの環境から生み出す／5歳児

✦ きっかけ

園外保育で「キッズプラザ大阪^{※1}」に行き様々な遊びに触れて満足する。その後園で、特に興味をもち楽しかった遊び「レールの上に玉を転がす遊び」の再現遊びをした。

- 必要な遊具や材料を子どもたちが探し、平均台や転がす球を見付けた。
- 椅子を積み平均台の端を高くして2本の平均台がV字型になるようにし、片方から転がす。両端から転がしてみることで、球がはじけ飛ぶ様子を楽しむ。
- 斜面が高くなるにつれ、戻ってくる位置も高くなることに興味を示し、繰り返し楽しむ。

※1 大阪市にある子どものための博物館



✦ 実践「キッズプラザごっこ、やってみたい！」

ボールの道遊びを楽しんだ後、子どもたちは「キッズプラザごっこ」をしたいと話題にする。「家から牛乳パックとか持ってきてもいい？」と言う子どもが出る。

環境の工夫：家から持参した物を入れる箱を用意する。

レールウェイ／保育者：材料を一緒に探す

今まで積み重ねてきていた「カブラ^{※2}を使っのピタゴラ装置^{※3}」からの転換であった。「キッズプラザみたいな、大きなボールない？」と言うNちゃんは、ゴルフボールを見付ける。早速カブラの道に転がす。予想通り、カブラでは支えきれずグチャグチャになってしまう。「道が小さいんや。なんか他にないかな？」と探し回り、以前使っていたブロックを見付けて試行錯誤をする。何日も繰り返しボールが落ちないように幅を変えたり壁を作ったりする。

※2 積み木の一種

※3 NHK Eテレ「ピタゴラスイッチ」に出てくるからくり装置の名称



ジャブジャブポンプ／保育者：一緒に遊びモデルになる

「あの水のやつはどうする?」「紙ちぎる?」と話し合う姿が見られた。保育者は「そうやなあ。なんかバシャバシャーってなるようにしたいよね。紙やったらなんか痛そうやし、みんなが使ったことのあるものでフワーってなるものないかなあ?」と言うと、周りを見渡し、教材置き場の合成繊維製のテープに飛び付いた。「これをどうしよう?」と考えている子どもたちは、ポンポンを作る要領で小さいものを作り「ジャブジャブー」と頭からかける保育者を見て、自分たちで見よう見まねで作り始める。その後は、「水貯める箱持ってこよう!」「そこでじっと座っててや。水溜まったらバシャーってするから!」と自分たちで遊びを考えていった。



✦ 考察

5歳児は自分たちで遊びの目的をもち遊びを創り出していく。その時、遊びに必要な環境が目の前にあるとは限らない。しかし、様々な教材や遊具で思い思いに遊んでいる経験により、遊びに必要な物を探しだせる。遊びに必要な物を選びだせる環境や支える保育者により、再現するには難しい遊びを意欲的に始めることに結び付いた。

無断転載を禁ず。引用する場合は下記を必ず明記願います。

「(C)公益財団法人 ソニー教育財団

ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」